磯巫

題字は社宝伝崇徳天皇ご宸筆
勅額の文字を模したもの です。

『尊き生命への想い その九』

菅　靖　匡（作家）

たとえば政府など、しかるべきところから「明日、ついに太陽が爆発します！」という公式発表があったときには、それこそ恐慌のあまりにとり乱してしまうかも知れません。

しかし、二〇〇億光年のかなたに原始銀河が発見されたとか、とうとう人類が火星着陸に成功したとか聞かされても、（ああ、そうですか）くらいのことでしかありませんし、もっと身近なところでは、かの原子力関係のお偉いさん方がつきつづける嘘だとか、たちまち数年前にiPS細胞が開発されたとか、昨今ではSTAP細胞とかいう大騒動などよりも…、ただいま飲み屋で隣り合わせている別嬪さんのことやら、つぎの店に誘えるかどうかの財布の中身のほうが、私にとっては何より重要な一大事なのです。

せいぜい、その程度の私にとって生物の進化論というものは、とてもよく出来たパズルくらいにしか理解できないのですが、よく出来ていると感心するところは、もともと地球に発生した生命は大いなる唯一、すなわち現在に確認されている多種多様の動植物の生命が、まったく同一のものであることを科学的に、とても分かりやすく説明されているあたりでしょうか。ところが、だからといって映画『猿の惑星』シリーズではあるまいし、人間の先祖が猿だというのはいかがなものか…、と思いあぐねているゆえに、学者の偉いさん方が「ぜったい間違いないのだ！」と言い張っているとしても、ついに信じきるまでには至らないのです。いえ、つまりは二足歩行しはじめたとか、道具を器用に使いはじめたとか、そうするうちに脳が肥大化して発達した等々、そんな身体的なことだけで私たちの御先祖様方はじめ、愚かしくも偉大なる人間という存在が定義づけられてよいものかどうか…、そんなことを思ってしまうのです。またしても私の勝手な想像ではありますが、類人猿【この呼び方も、いたって不可思議ではありますけれど】はじめ他の生物と人間とを分けたのは、私たちの御先祖様方が信仰心に目覚めた瞬間であったのだと想います。

やや具体的に申しますと、それまでは他の生物と同様に、いわゆる本能が優先している生活であったものが、ふと天と地をながめつつ、いかに自分たちが弱々しくも頼りない存在であることか…、と気づきましては、その絶大なる自然の力の前に畏まって奉りながら、さらに「どうぞ守らせたまえ、救わせたまえ」と祈りを捧げはじめたときに、しかと人間としての生活がはじまり、やがて『和を以て尊し』という素晴らしい境地にまで至ったのだろうと思っているわけです。その証の一つに、我が国には古来、《人がましい》という言葉と《人でなし》という言葉がありますでしょう。つまり、見てくれ【容姿】だけが人間であってもダメなわけで、その精神の在りようと、それにもとづく言動こそが人間であるかどうかを区別する基準とも考えられていたのだと、私は思っているのです。

そんなふうに想ってみれば《生命》というのは、あるいは強かで凶暴な性質であるやも知れません。他を殺してでも自身だけは生きのびようとし、実際、地球の生態系は弱肉強食と申しますか、そのように出来上がっているようにも見うけられましょうか。

「そのなかで最も異常な個体は人間であり、したがって人間ほど恐ろしい生物はいない」などとおっしゃる方々もおられるようですし、いえ、たしかにそうかも知れません。

近年の我が国における凶悪犯罪も然り、ひいては世相といったものも含め、これ決して総じて望ましい状況とは思えませんけれど、「こうした不幸の根源は何か⁉」と自問して、ことに戦後より、「ついに信仰心を忘れかけている【いっそ忘却してしまったか⁉】人々が激増していることだ」と自答したりもする昨今であります。およそ人類史上に輝かしき業績をのこした人々はじめ、私の尊敬するアインシュタイン博士も、「科学する者に最も必要不可欠な素養は、すなわち信仰心である」と言ってますでしょう。また、世界的な名医とも謳われた誰かしら【ご芳名は失念しましたが】の著書に、「生命と向き合う医者が、信仰心をなくしてどうするか！」といった意味の文章を読んだ記憶もあります。

あたかも科学が万能であるかのような、不老不死にも似た幻想などは、いい加減にして、そろそろ人がましく謙虚な心でもって、それぞれ尊き生命を包むことを始めませんか。

水無月の大祓式

・六月三十日(月)　午後五時より
境内にて

大祓の神事は全国各地で行われており、地域によっては茅の輪に御幣を刺したり、神事の後に和菓子を食したり、「大祓」と称さず、「和ぬけ様」と親しみをこめて呼ぶところもあります。

六月と十二月の晦日に執り行うことで、罪や穢れを祓いやる除災神事であり、その起源は大宝元年の「大宝律令」にまで遡ります。

当社においても、茅の輪を設けて神事を執り行います。多数のご参拝をお待ち致しております。

◎初穂料　五〇〇円
人形頒布、おふだ授与致します。

夏越祭

（旧暦　六月十五日）

本年は　七月十一日(金)です

夏の盛りに御家族の健康を祈り、無事に過ごせることができるよう古来から執り行われている当社の夏越祭が近づいてきました。

午後五時に本社を御立された御神輿は、伊曽乃橋を渡り、御旅所、川原町を経て斎場に着御され、氏子崇敬者の皆様のご参拝のもと、神事を斎行します。

・とき：七月十一日(金)　夕刻より
・場所：加茂川原
（加茂川橋下流　右岸）

◎人形は、氏子総代様より事前頒布致します。
当日、斎場受付所にもございます。

表彰・感謝状　受賞者御芳名

神社運営に御功績のあった次の方々に表彰状、感謝状を贈呈させていただきました。

永年奉仕者表彰
高橋　強美　殿

年番表彰（玉津地区）
氏子総代　近藤　清政　殿
氏子総代　原田　怜　殿
氏子総代　髙橋　淳司　殿
日野　信二　殿

総代永年奉仕者表彰（二十五年）
前氏子総代　髙橋　元正　殿

鬼頭勤続感謝状（十年）
鬼　頭　髙木　義明　殿
鬼　頭　曽我　享司　殿

御奉仕御礼

ご多忙の中、御奉仕を賜りました皆様方をご紹介し、御礼申し上げます。

正月前の境内清掃奉仕
神戸長寿会、神拝老人会の皆様

神門前大楠奉製
神戸長寿会の皆様

春祭前の境内清掃奉仕
大町福寿会、神戸長寿会、神拝老人会の皆様

下福古墳清掃奉仕
西條史談会有志の皆様

春祭餅つき奉仕
神戸長寿会の皆様

春祭餅包み奉仕
明比徳子様ほか有志の皆様

例大祭

年番

本年は大町地区（常務総代 小野昭雄氏）です。宜しくお願い致します。

だんじり・みこし奉納願

各町内の氏子総代様を通じて、運行責任者の方々へお渡し致します。次の事項を熟読の上、期限までにご提出ください。

なお、奉納願は秋の総代総会において、奉納予定だんじり・みこしの資料ともなります。お含みおきください。

提出期限

八月三十一日（当日消印有効）

記載内容

・正確な「だんじり」又は「みこし」の名称

・責任者の住所、氏名、連絡先、押印

・提出月日

留意事項

必要事項の未記載、押印のないものは書類不備として認められません。

鬼頭・屋台総代総会

奉納願に記載されました総取締宛に、案内状を後日郵送致します。責任者は御出席ください。

・とき　九月七日(日)
（受付）午後六時三十分～
五十五分まで
（開会）午後七時より

・場所　市総合文化会館

事始式

例大祭に備え、忌籠り（言動を慎み、身を清める）の期間の始まりを告げる神事です。

・とき　十月四日(土)
午後二時より（神戸・大町・玉津）
午後三時より（西条・神拝）

参列される運行責任者は、町内揃いの祭り装束で御来社願います。

舁夫守り

例大祭のお守りとして、お申し込み後に奉製致します。

御希望の方は、次の点に御注意の上、専用の用紙にてお申し込みください。（申込用紙は、社務所のほか、当社ホームページからもダウンロードできます。）

①名前入り【電話申込不可】
（受付期間）七月一日～九月十四日
（初穂料）一体　八〇〇円
＊人名を記入します。「姓」と「名」をお知らせください。

②名前なし【電話申込可】
（受付期間）七月一日～十月十五日
（初穂料）一体　五〇〇円

頒布開始　十月一日　正午より

◎お申し込みから、数週間程度の時間がかかりますので、余裕をもってお申し込みください。

新嘗祭 神宮大麻頒布始祭

当社の新嘗祭では、伊勢の神宮のおふだ「神宮大麻」の頒布始祭も併せて斎行致しており、各町内の氏子総代様の御協力を得て、氏子の皆様に頒布致しております。

新しい年を迎えるにあたり、神棚に日本の総氏神様である伊勢の神宮大麻と、地域の氏神様のおふだをお祀りし、御家族の御健勝と御繁栄をお祈りしましょう。

神事

十一月二十三日(日)　勤労感謝の日

午前九時より

氏子総代さまへ

平成二十七年度の神宮大麻、神社大麻をお渡しいたします。神事に御参列くださいますよう、御案内申し上げます。

土地家屋に関するお祓いについて

当社では、神職が出張して現地で行う次のような祭典を行っております。お祓いをご検討中の方は、御相談ください。

一、地鎮祭（じちんさい）

土木・建築工事を行う際に、その土地の神々を鎮め奉り、許しを乞う祭りです。

一、新宅祭（しんたくさい）

新築家屋を祓い清め、神棚にお札を祀り、災害防除、家内安全を乞う祭りです。

一、開業清祓（かいぎょうきよはらえ）

店舗や事務所などを祓い、商売繁盛、災難厄除を乞う祭りです。

一、遷座祭（せんざさい）

邸内に祀る祠、社を一時的に移設する際の祭りです。

一、解体清祓（かいたいきよはらえ）

建造物の解体にあたり、建物に座す神々にこれまでの感謝を伝え、工事の安全を乞う祭りです。

一、御井戸祓（みいどのはらえ）

井戸や、うちぬきなどの工事をする際の祭りです。埋め戻しの際も行います。

一、起工祭（きこうさい）

工場棟の建設や、作業機械の新規据付等の作業安全を乞う祭りです。

一、竣功祭（しゅんこうさい）

起工祭に次いで、完成したことを奉告する祭りです。

この他にも、家祓、宅神祭などがございます。

社頭点描

正月三が日

元旦は好天に恵まれ、気温も高く初詣に来られた参拝者の方も多く見られました。

また、恒例の田宮流居合術奉納は二日に、荒川獅子舞奉納は三日にあり、例年楽しみにされている方々が朝早くから訪れ、大勢の観客で賑わいました。

左義長神事

当地方では、「とうどさん」として親しまれている左義長神事を一月一五日に執り行いました。

これまでお護り戴いた古神札や正月飾りなどを忌火で御焚き上げし、参拝者へみかんをお配りし、無病息災を願いました。

初天神祭・筆供養

一月二十五日、境内社の伊曽乃天満宮にて学業成就、書道上達を願いました。

恒例の筆供養では、市内外の書道家が持ち寄った古筆を御焚き上げしました。

紀元祭

二月十一日、多数の参列を戴き祭典を執り行い、午後からは恒例の「建国記念の日奉祝　東予地区大会」に参加しました。

祈年祭

大祭にあたる祈年祭を二月十七日午前十時より斎行しました。

本年も、立正佼成会西条教会の御協力により、雅楽演奏の御奉仕を賜り、厳粛かつ優雅な祭典となりました。

崇敬会旅行

三月四日、五日の両日、福岡と長崎方面に参りました。太宰府天満宮で正式参拝、長崎グラバー邸、今回の目玉である大神社展を巡りました。

開運春祭

時折雷雨を伴う雨模様で、予定されていた子供だんじりの奉納も減となりましたが、正午を過ぎたあたりから徐々に雨も止み、餅投げは無事に行われました。

氏子総代会

三月二十三日、平成二十五年度春季氏子総代会を、伊曽乃会館において開催しました。

崇敬者大祭

四月二十九日、恒例の崇敬者大祭を斎行致しました。

菖蒲祭

子供の無事成長を祈願する菖蒲祭を五月五日に執り行い、今回はお供え物を供える「献饌」を、氏子の方々の御奉仕によって執り行いました。

神戸小学校児童　来社

地域学習の一環で、地元の市立神戸小学校三年生が当社を訪れ、神社の歴史などを学習していました。何より始めに、揃ってお参りする姿に感心させられました。

御祈禱の御案内

◆安　産

赤ちゃんを授かったことへの感謝を伝え、無事に出産できるよう、御加護を戴く御祈禱です。

（参拝日）
「戌の日」又は、「亥の日」が良日とされています。

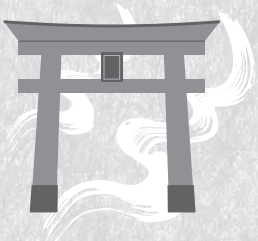
（持参品）
岩田帯（腹帯、妊婦帯）を御持参ください。

◆初宮詣

無事に生まれてきたことに感謝し、すくすくと成長できるよう、祈願するものです。

（男児）
生後三十二日目

（女児）
生後三十三日目



◆七五三詣

お子様の無事成長を祈り、氏神さまから御神徳を戴く御祈禱です。

（数え年）
三歳　平成二十四年生まれ　男児・女児（壬辰）
五歳　平成二十二年生まれ　男児（庚寅）
七歳　平成二十年生まれ　女児（戊子）

◆結婚周年式

家庭円満で仲睦まじく、健康に夫婦生活が過ごせていることに感謝し、これからも末長くありますようにと御神徳を戴く周年ごとの御祈禱です。

（結婚周年式の例）
紙婚式　満一年　皮婚式　満三年
木婚式　満五年　錫婚式　満十年
銀婚式　満二十五年
金婚式　満五十年

◆交通安全

車両の購入に際して、交通安全と車両のお祓いを行い、交通法規を遵守し、事故のない運転になるよう、御加護を得るものです。

◆必勝祈願

全国初の神階奉授の神社、海賊平定成就の神社にあやかり、就職や各種競技など、順位勝敗を決する事柄に日頃の成果を如何なく発揮し、見事打ち勝てるよう、御神徳を戴くための祈願です。

（主な祈願）
入学祈願　就職祈願
競技必勝祈願　選挙必勝祈願

祭事暦

（平成二十六年六月～十一月）

六月	一日	朔日祭	午前九時
	十五日	月次祭	午前九時
		古神札焼納祭	午前十時
	三十日	大祓式	午後五時
七月	一日	朔日祭	午前九時
	十一日	夏越祭	夕　刻
	十五日	月次祭	午前九時
八月	一日	朔日祭	午前九時
	十五日	月次祭	午前九時
	十七日	瑞枝神社例祭	午前八時
九月	一日	朔日祭	午前九時
	適宜の日	秋季氏子総代会	（後日通知）
	七日	鬼頭・屋台総代総会	午後七時
	十五日	月次祭	午前九時
	二十三日	秋季皇霊祭遥拝式	午前九時
		物故神職慰霊祭	午後二時
十月	一日	朔日祭並舁夫守入魂祭	午前十時
	五日	事始式	午後二時、午後三時
	十四日	宵宮祭	午後五時
	十五日	例大祭	午前四時三十分
		神幸祭	終日
	十六日	御旅所祭	午前四時五十分
		神幸祭	終日
		還御祭	午後六時
	十七日	神嘗奉祝祭	午前九時
十一月	一日	朔日祭	午前十時
	三日	明治祭	午前九時
	十五日	月次祭並七五三祈請祭	午前九時
	二十三日	新嘗祭並大麻頒布始祭	午前九時

おしらせ

当社ホームページでは、各種神事の御案内をはじめ、「社務日誌」と題した神社の様子や、お寄せいただいた写真などの掲載、氏子崇敬者の皆様へのお知らせなどを発信しております。

また、過去の社報もご覧になることもできますので、多数アクセスしてください！

http://www.isonojinja.or.jp/

編集後記

平成二十六年正月は例年より暖かく、たくさんの参拝者をお迎えする事ができました。

参拝者との会話の中で「伊曽乃神社の社報を見て…」という言葉をたくさんいただきました。

「社報で紹介されていた新授与品が気になって参拝に来た」「祭典の案内を見て、せっかくなので参列してみようと思った」など、社報を通じて参拝に来たというお言葉を耳にしました。

このように社報を見て、少しでも伊曽乃神社に関心をもっていただき、参拝に訪れる事は何よりも嬉しいことです。

現在は周囲には情報が溢れ、気になることがあれば手元のスマートフォンですぐに調べる事が出来る時代。

いろいろな形で皆様方に伊曽乃神社の情報を発信していき、少しでも神社に興味を持っていただけたらと思っています。

（愛）

発　行

伊曽乃神社社務所
〒793-0054 西条市中野甲一六四九
電　話　〇八九七-五五-二一四二
ＦＡＸ　〇八九七-五六-四七六二
ホームページアドレス　http://www.isonojinja.or.jp/
E-メール　info@isonojinja.or.jp